

令和元年度 東北歴史博物館協議会議事録

日 時 令和2年2月7日(金)

10:00～12:10

場 所 東北歴史博物館 大会議室

出席者・委員(50音順)

東北生活文化大学名誉教授	近江 恵美子
大河原町立金ヶ瀬中学校校長	大内 恵美
多賀城市芸術文化協会会長	菊池 すみ子
株式会社河北新報社編集局長	今野 俊宏
多賀城市立城南小学校PTA会長	立川 靖子
(会長) 宮城学院女子大学学長	平川 新
東北大学大学院文学研究科教授	柳原 敏昭
(副会長) 名取市立下増田小学校校長	渡邊 美由紀

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶 宮城県教育庁文化財課長 天野 順陽
- 3 委員及び事務局職員紹介
- 4 会長及び副会長の選任
- 5 議事
(1) 令和元年度事業報告について
(2) 令和2年度事業計画について
(3) 東北歴史博物館中長期目標令和元年度自己評価(12月末現在)について
- 6 その他 宮城県文化財保存活用大綱について
- 7 閉会

(配付資料)

- 1 会議次第
- 2 東北歴史博物館協議会委員名簿
- 3 席次表
- 4 歴史博物館協議会条例
- 5 資料1 「令和元年度事業報告」
- 6 資料2 「令和2年度事業計画」
- 7 資料3 「東北歴史博物館中長期目標令和元年度自己評価(12月末現在)」
- 8 宮城県文化財保存活用大綱について

1～4まで記載省略

5 議事

議 長	傍聴人はいらっしゃいますか。
総括兼管理班長	おりません。
議 長	では、早速議事に入りたいと思います。 1の「令和元年度事業報告」について、事務局からお願いします。

副館長	<p>(説明の概要)</p> <p>【令和元年度事業報告】</p> <p>1 企画展示事業</p> <p>(1) 常設展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合展示は通年，総合展示室で旧石器時代から近現代までの東北地方の歴史を展示。 ・テーマ展示は，テーマ展示室1で①「郷土玩具の世界－黒田コレクション－」など3テーマ，テーマ展示室2で④「東北の土偶」など4テーマ，テーマ展示室3で⑧「仙台藩工芸－刀剣と甲冑－」など7テーマの展示を実施。 ・映像展示は東北地方の祭や民族芸能，工芸技術の映像を上映。 ・屋外展示の今野家住宅は，令和元年8月1日から令和2年3月31日まで屋根葺替工事のため観覧中止。 <p>(2) 特別展示</p> <p>【東京藝術大学スーパークローン文化財】展</p> <p>平成31年4月19日から令和元年6月23日まで58日間開催。スーパークローン文化財とは，東京藝術大学が開発した芸術と科学の融合による高精度な文化財の再現（複製）技術であり，この技術によって法隆寺の金堂空間，敦煌の莫高窟，破壊されたパーミヤンの東大仏天井壁画のほか，著名な芸術作品も再現展示を行った。関連行事として宮廻正明東京藝術大学名誉教授を招いての記念講演会のほか，ギャラリートーク，展示解説，ワークショップとして体験イベントを実施。観覧者数は23,909人。</p> <p>【モダンデザインが結ぶ暮らしの夢】展</p> <p>令和元年7月13日から9月1日まで44日間開催。1928年，国立デザイン指導機関として日本で初めて仙台に設立された，「工藝指導所」の顧問に招かれたブルーノ・タウトの指導をきっかけに，モダンデザインが日本で育っていく過程を，戦争という過酷な時代を経て更新していく様子を展示。関連行事として展示解説，講演会などのほか当館学芸員がテーマを絞って解説した「ちょこっと解説」，さらに多賀城市立図書館への出張解説も実施。観覧者数は3,381人。</p> <p>【蝦夷－古代エミシと律令国家－】展</p> <p>令和元年9月21日から11月24日まで56日間，東北歴史博物館開館20周年記念・多賀城跡調査研究所50周年記念特別展として開催。古代東北において，律令国家の支配に属さない「蝦夷（エミシ）」と呼ばれた人々に関するもので，最新の考古学の発掘調査成果と古代史学の研究を集大成し蝦夷と律令国家との軋轢と交流の実像について展示。関連行事では，プレイイベントとしてアニメ「アテルイ上映会」と特別講演会を実施したほか，記念講演会，蝦夷講座，多賀城講座などを実施。観覧者数は9,088人。</p> <p>【パネル展】</p> <p>2回のパネル展をエントランスホールで開催。①「古海図で見る東北の港の今昔」を令和元年9月3日から16日まで13日間開催。②開館20周年記念パネル展として「東北歴史博物館20年のあゆみ～明日へ，そしてその先の未来に向かって～」を令和元年10月22日から12月1日まで36日間開催。</p> <p>2 教育普及事業</p> <p>(1) 施設運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども歴史館 利用人数を12月末で対比すると昨年に比べ2,760人の減少。 ・図書情報室 12月末で対比すると昨年に比べ6人の減少。 ・今野家住宅 7月まで（屋根葺替工事のため）で10,709人利用。 <p>(2) 催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館長講座（12回），博物館講座（20回），体験教室（10回），多賀城跡巡り（15回），民話を聞く会（3回），体験イベント（3回）を実施。 <p>(3) その他の教育普及事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校校教育との連携では，職場体験として中学生を受け入れたほか，校外学習で来館した児童・生徒に講義を実施。 <p>(4) 今野家住宅母屋建築250周年記念事業</p>
-----	---

・移築・復元，そして展示に関わった安井妙子氏，当館の笠原館長を講師に，令和元年10月14日に記念講演会を開催。

(5) 平成31年度文化庁地域の博物館を中核としたクラスター形成事業

・地域の民話伝承に対する関心を深め，次世代への民話伝承について学び考える機会を提供することを目的として，講演会や実演会を実施。

3 調査研究事業

分野横断的なテーマとして「歴史的災害展示研究」プロジェクトを設定し，共同研究を進めている。過去の歴史的災害を振り返りながら震災の記憶を後世に伝えることを目的に，どのような形で展示として成立させるかを検討。今年度は本プロジェクトの成果の総括として「試行展示」を実施しさらに議論を深めいく。

そのほか，考古，民俗，歴史，美術工芸，建造物，保存科学の6分野において，宮城県，東北地方を中心に調査研究を実施。これらの調査研究の成果については，研究紀要や定期的に開催する講座などで公開。

4 資料管理事業

(1) 資料の収集・利用

実物資料の購入について，令和2年1月24日に開催された東北歴史博物館協議会資料収集専門部会において，購入候補資料3件4点の購入について承認され，現在資料の購入手続きを進めている。

(2) 保存環境・保存処理等

収蔵庫，展示室の環境確保や，遺跡等の出土資料の保存処理などを実施。そのほか，他自治体からの調査依頼に対して調査協力や指導助言を実施。

5 東日本大震災対応

(1) 被災文化財の保全活用

県内の被災文化財の保全・修理活動を行うほか修理や保存に関わる技術的研究も推進。

(2) 県内復興関連発掘調査への協力

引き続き県文化財課が行う復興関連の発掘調査に考古学分野の職員を1名派遣。

6 その他

(3) 入館者統計

12月末時点の入館者数は97,828人。前年同時期比72,488人減。人数減の要因として，前年度に開催した「東大寺と東北展」などの特別展観覧者数が過去2番目に多い約8万1千人に対し，今年度が約3万6千人にとどまったこと，今野家住宅利用者が屋根葺替え工事に伴う観覧の中止により約1万8千人減少したことが考えられる。

(4) 友の会

12月末時点の会員数は，賛助会員24件，家族会員134組(389人)，普通会员284人，学生会員8人で合計450(実人数705人)。

令和元年度特別展観覧者アンケート概要

(1) アンケートの回収率

特別展観覧者合計36,378人に対し，回収数1,973枚，回収率5.4%

(2) 来館者の属性

①男女別では，スーパークローン展，モダンデザイン展で女性が半数を超えた。蝦夷展では男性が約6割を占めた。

②年代別では，40代以上の方の割合が高く，特に蝦夷展は60代以上が半数近くを占めた。一方，モダンデザイン展では30代以下の方の割合が比較的高い。

③居住地別では，いずれの特別展でも仙台市が最も多く，次いで県内の仙台市・多賀城市以外。県外からの来館者も相当数あった。

(3) アンケートでの主な意見

大変満足したという意見の一方で，展示室内を明るくしてほしい，解説の文字が小さいといった展示方法に関する要望も多数。これらの要望に対し，表示方法を見直すなどできるものから速やかに対応し，よりよい展示に努めた。

議 長	<p>ただいまの報告につきまして、何かございますでしょうか。</p>
近江委員	<p>特別展ですが、3つありますけれども、いずれも大変興味深く、内容的にも非常に濃いもので大変すばらしい特別展示だったかと思えます。入館者数で「モダンデザインが結ぶ暮らしの夢展」がすこし少ないですけれども、この種の展示にしてはまあまあだったのではないかと思います。いずれも、担当の方が頑張られた特別展示ではないかと評価したいと思っております。</p> <p>それから、5ページの2番の教育普及事業のところ、こども歴史館の参加数ですが、前年度に比べて、今年度は若干減っているということ。今少子化による生徒減という問題があるかと思いますが、もう少し頑張らないといけないなという感じがいたしました。そういった意味では、学校教育との連携をさらに密にさせていただけると良いかと感じました。</p> <p>それから13ページですが、特別展観覧者のアンケートの内容で「③の居住地別」のところ、博物館がある多賀城市の観覧者が非常に少ないと感じました。仙台が大半で、その他はこれくらいかとも思うのですが、地元このような立派な博物館があって、大変良い展覧会があるにも関わらず、大変参加人数が少ないということを率直に感じます。ですから、もう少し地元の方へのアピール、それはしてらっしゃるかと思いますが、例えば毎月の市の広報の中にお知らせしてるかと思いますが、もう少し行ってみたいと思わせる魅力ある広報の仕方というものを考えた方がよろしいのかなと思います。どうしても地元の方の支持がないいろいろな面で地元の方の協力体制というのが、どうしても地域に根差した博物館活動という意味では、少し不足するかなと思われまので、その辺をちょっと努力していただければなと思います。以上でございます。</p>
議 長	<p>ありがとうございます。今の委員からの発言について、事務局の方いかがですか。</p>
副館長兼 企画部長	<p>貴重なご意見どうもありがとうございました。何点かご指摘いただきましたが、例えばこども歴史館の数、資料の方をご覧くださいと分かりますように、昨年に比べかなりの数が減っております。近江委員がおっしゃられましたように、確かに少子化ですとか、小学校が統合されて小学校の数も減ってきているということもあって、数字的に10年ぐらい流れで見えますとかなり減ってきているというのはあります。ただそれだけが問題ではなく、やはり当館を小学校がご利用になるときに今野家とこども歴史館と常設展というように、広く利用されるというケースが非常に多い中で、今野家が夏から観覧休止にせざるを得なかったということもございまして、その辺も今年度に関しては、影響があったのかなということも考えられました。</p> <p>それから、多賀城市との連携というお話もありました。まさにおっしゃるとおりでございます。昨年度東大寺展の開催の際には、多賀城市さんと密に連携をとりまして、かなりの数の皆様に喜んでいただきました。その実績をもとに、今年度は特に秋の蝦夷の展示に際しまして、やはり地元の中で多賀城というところにも住まいの方々には歴史、多賀城いうものを強調してお伝えしたいと思い、チラシなども全戸に配布させていただきました。さらに、特に多賀城市内の方に、優遇とってはなんですけれども、例えば町内会ですとかいろいろな文化団体などの方々でまとまって来ていただくと、学芸員の解説やかなりの割引などもさせていただいて、御観覧いただけるという制度を作り、多賀城市の教育委員会や文化振興の係の方と打ち合わせしながらやらせていただきました。こういった取り組みなども行いまして、多賀城市さんとの連携をかなり深めてきております。なかなかこれがすぐ形になるというのは難しい点もあります。特に多賀城市となりますと、若い方が非常に多いのですね。よそから引越してこられた方ですとか転居をされた方などいますので、その若い方も今度はターゲットに考えながら、多賀城の魅力伝えていけるような、いろいろな方策をとっていければと考えております。それから、地元でやっぱり行ってみたいと思わせるような魅力ある広報を、という近江委員のご意見を賜りまして、今後に活かしていければと思っております。以上です。</p>

議 長	他にはなにかございますか。
立川委員	<p>隣の城南小学校のPTA会長をさせていただいております立川です。今年で3年目ということで、またお呼びいただきまして本当にありがとうございます。私のような経歴のないものが、ここに来て何を喋ろうかなと考えたのですが、やはりここに住んでいるものとして、子育てをここでしているものとしての見方で、見させていただきたいなと思い今日参りました。</p> <p>こども歴史館は我が子もたくさん利用しましたが、もう内容物がわかってるんですね。そこに行けばこういうものがあるんだ、やったことあるよ、ということでだんだんそういうこともあるのかなっていうのは実際感じているところです。</p> <p>もう一つ、ここに来ていろんな特別展など、皆さん目的を持ってくるのですが、今野家住宅は今改修工事だということで見られないということになっていますけども、その向こうの奥の森は、どちらの管轄でしょうか。こちらでしょうか。何年か前にカエダケですとか、スズメバチが飛んでいるなどちょっと暗いイメージがあります。ここに住んでいまして、通学路が近いものですから。今通行止めになってるようすけれども、ここは向こうの方の廃寺公園に行けますし、多賀神社や歴史に触れられる通路にもなりますので、是非ここで見る楽しみのほかに、ちょっと散歩できるようなことをアピールしていただくと良いかと。大変素晴らしいですよ、桜の時期とか、とってももったいないなっていう気もしております。私もずっとここに住んでいますので、子育てをするとき散歩をしたのですが、できた当初はそんなに鬱蒼とした感じではなかったのですが、だんだんと鬱蒼としてきているなど、私も通りたくないなというところもあります。</p>
副館長兼 企画部長	<p>立川委員ありがとうございます。私からこども歴史館のことにつきましてお答えさせていただきます。まさにおっしゃるとおり、先ほどお話にありましたとおり当館20周年という年を迎えまして、正直言いまして、シアターの部分は新しいコンテンツなどを取り入れて、改修させていただきましたが、なかなか新しいコンテンツをリニューアルして、作り上げてというのはちょっとできない状態となっています。とは言いますものの、何度もご利用いただけるための取り組みといたしましては、解説員などが中心となって、季節でちょっとした小コーナーの変更をやったり、あるいは夏休みとかになりますと、特別な企画を作ったりして、近くで何度も来ているお子さんたちにも、新しいものが何かやってるかなっていうことがわかるようにしております。あと今ですけれども、3階の方で、懐かしい時代の展示コーナーを新たに作りまして、今まで一番うちの3階で人気のあるのは火起こしですが、あえて火起こしを外しまして、新しいコーナーを作って公開しているという形になっておりますので、是非お子様にもお伝えいただいて、来ていただければと思います。よろしくお願いたします。</p>
議 長	柳原委員，どうぞ。
柳原委員	<p>常設展示・特別展示，充実したものを毎回，毎年開催していただきまして敬意を表したいと思えます。特別展示の方ですが，おそらく蝦夷展が20周年記念あるいは多賀城跡調査研究所創立50周年ということですから，力を入れられたと思うんです。私も拝見させていただきました。感銘を受けたのですが，ただ観覧者数でいうとスーパークローン展が2万3千人もいて，蝦夷展が9千人というのはすごく意外な感じがしました。</p> <p>それから，13ページの方にありますアンケートで，居住地別の入館者を見ますと，なぜか蝦夷展が地元の多賀城市の方の割合が非常に少ないという。これはやはり蝦夷展は東北歴史博物館ならではの企画で，ある意味自前の企画で，それからスーパークローン展は外から来ているという感じがするのですが，やはりこういう傾向というのは常にあるということなのですか。それから，地元の方が少ないということで，蝦夷展ですね，もしかするとネーミングタイトル，「蝦夷と多賀城」とかですね，ちょっと，地元により近いものを入れたりすると，もしかするともう少し良かったのかなと，そんな感想も持ちました。</p>

議 長	事務局どうぞ。
副館長兼 企画部長	<p>ありがとうございます。まさに私ども実は、正直申し上げまして同じような感想は抱いております。まず、春のスーパークローン展でございますけれども、確かに「バーミヤン・敦煌莫高窟」と結構ネーミングのメジャーなタイトルで今回はこれをやる時に付いていたんですね。やはり、聞いたことあるなという言葉でお客さんをキャッチするネーミングで、非常に長いタイトルになってしまったんですけども、最後を付けさせていただきました。シルクロードという言葉をつけますと、ゴールデンウィークということもありましたので、家族連れですとか、先ほどの属性にもございます女性の方々にも非常に評価が良く、最初あまりお客様は少なかったのですけれど、尻上がりといいますか、だんだん口コミやSNSなど、そういうような形でどんどん伸びていったというお客様の動きはございました。わかりやすく大きい迫力のある展示空間の構成ができたということもありましたので、その辺が口コミで、「行って面白いよ」とか、「すごかったよ」というような反応があったのかなという感じがしました。それで、蝦夷の方も少し期待したところではあったんですけど、少し数が委員がおっしゃられたように少なかったという感じがします。少し展示的にも内容が、ある意味かなり中身的に深いものを追求するなど、一般の方々にどこまで受けたのかなという点ですが、アンケートを見ましても、「ちょっと難しいな」というような言葉などをいただきまして、所謂どこまで専門的に、中身を詰めて展示しているのか、どこまで一般のお客様にも本当にわかりやすくお伝えするのかという、博物館といたしましては難しい、タイトル及び内容のものだったので、広くお客さんにアピールするという点ではちょっとそこまで力が足りなかった感じはいたしました。</p>
管理部長	<p>先ほど立川委員から裏山活用というお話がありましたが、池の向こうの遊歩道などは定期的に清掃・草刈等整備しているところです。しかし委員がおっしゃられたように、秋に蜂等や数年前は毒キノコというようなものがございまして、危険表示をさせていただいて、今年度もスズメバチの発生がございましたので駆除を行うなどいたしまして、皆さんが楽しく歩ける場として提供していきたいと思っております。秋にはどんぐりや木の根元なんか見ていただくと小さクワガタのような虫がいたりして、非常にお子さん方、小学生の方が来て楽しんでいただける場であると思っておりますので、安全に配慮しながら整備していきたいと思っております。</p>
議 長	今野委員、どうぞ。
今野委員	<p>企画展の話は、目玉となる企画展でどれだけ集客力があるものを開催できるかというのは、弊社も密接に関わっているものですからね。東大寺展は、当初からとてつもなく人が来るだろうなというのはありました。それに比べて、比較する話じゃないような気がしますけど、そここのところはうちとしても全県的なものもあるし、今後一つは隣県ですよ。福島とか山形からも、人が来てもらえるようにということで、紙面的にも使えますけれど、隣県の新聞社にも呼びかけて記事を書いてもらったりしてるんですね。やはり、買い物だったら仙台圏に行ってみようという人で、隣県から集客力を高めるという非常に重要な視点だと思うんです。ということで、本年度の目玉は非常に良かったと思いつつ、東大寺ほど集められなかったということに関しては、個人的な思いはございます。そここのところはまた一緒に連携しながらやっていければなと思っております。</p> <p>別の話で今野家住宅のことなのですが、うちの祖先とは何ら関わりございませんが、名前は一緒ですけども。一つ、ちょっとお聞きしたいのは、茅葺きの葺替えをやってますよね。あれは、地元の物を使っているのでしょうか。ご存じのとおり、北上川の追波川に続くところの葦原については、震災の大きな影響があってその後復活してますので、今野家が単に経年劣化で葺替えの時期がきたから、ということではなく、地元の素材を使っていること、震災との関わりやそういった歴史のある地元の産業の一つなんだというところをアピールしていくと、大きな目玉になるような気がします。3月に見学もあるということですけど、今後そこら辺のところのアピールを、単に古い民家がありますというのではなく</p>

館長	<p>て、地元との関わりというのをどのようにPRしていくのかちょっとお伺いしたい。</p> <p>今野家住宅の屋根材をどうしているかということですが、これは結論から言いますと、今、屋根材とした葦、北上川で刈り取りをしてその葦を使用して葺替えをしております、開館当初に今野家を移築しているわけですが、その時も同様に北上川の葦を使っております。今回の葺替えにつきましても、北上川の葦、地元産の屋根材を使って葺替えをしているということです。そして一般の方にも今野家の補修修理を見ていただく機会もこの後用意していろいろな試みをしてございますけども、県のかつての古民家がこういう状態でしたというところを、今後もよりアピールしていきたいと考えております。</p>
議長	<p>熊谷産業ですね。まず、熊谷産業自体は全国的に、そのような注文を受けて、貴重な存在だということなのですけど、そのこと自体が今おっしゃられたように、PRの根拠にはなるという魅力の一つにはなるんだろうと思います。地元でそういった、地元ならではの事業者がいて、そこと連携して、古民家を復元していますということ自体が、子供たちにどうアピールするかということとは別に、大人向けには必要であろうと思います。修復過程は公開するという事ですね。葺替えのところはすごく魅力的で今いろいろな寺社等の修復も、修復展示の形で観光資源にしているの、その点は是非考えていただければと思います。</p>
今野委員	<p>熊谷産業では、全国から若い人が集まってきていろいろな試みをやっています。昔取材したことがあるのですが、茅葺き職人さんというのはやはりもう人材不足や高齢化が進んで、全国的に激減しているという状況があります。ちょっと聞いたら、一日の日当のあまりの高額さにびっくりしたぐらいですね。私は、自分の息子を茅葺き職人にしようとしたのですが、高いところが嫌いということで実現しませんでしたけど、そういう職人さんと人との関わりみたいなことも、子どもたちに伝えられるような工夫があったら良いかなと個人的には思っています。蛇足ですけど。</p>
議長	<p>実際に、先般津波で熊谷産業も大きな打撃を受けて、私どももすぐ直後に行ったことがあるのですが、そこから立ち直ってきた熊谷産業自体が、日本の伝統を守るために立ち直ってきたという実態がどこかで繋がっていくと面白い話になるのではと思います。小中学校の学校の生徒の参加が減ってきているということなのですけども。今日小学校中学校の校長先生がいらっしゃるのでそちらの立場から見てですね、どうすれば良いかという、ちょっとご発言いただければと思います。</p>
大内委員	<p>私は中学校の教員ですけども、仙南にいるものですからなかなか学校としてここを利用させていただくということは、近隣の中学校では少ないかなと思っております。ただ、この6ページの資料を拝見させていただきますと、多賀城市内の三つの中学校が職場体験として利用しているということで、どのような体験をしているのかなあというようなこと。私たちですと東京の方に修学旅行に行く。そうしますと、国立科学博物館を訪れさせていただきまして、そこでお仕事インタビューということでインタビューさせていただいて、学芸員の方になぜそういうことをしているのか、そして少しだけ体験させてもらったりということはやっているんですが、こちらではどんなことをやっているのか教えていただければよろしいですか。</p>
副館長兼企画部長	<p>学校との連携という中で職場体験のお話承りました。当館にもたくさんの希望があるんですが、なかなか受け入れ体制も十分整っていないので、現在このような形で受け入れております。具体的な話をいくつか申し上げますと、大体2日間、あるいは3日間という形で来ていただきまして、学芸員の仕事はどういったことをやっているのか、実際に資料の扱い方や資料の展示の仕方、あるいは貴重な資料を運ぶときの梱包、包み方の実際のやり方ですか、そういったようなことを、実際手を動かしながら体を動かしながら体験していただくということをやっております。ですから生徒たちはジャージに着替えてもらって、博物館の裏側を主に体を動かしながら職場体験をしてもらうといった取り組みをしております。たく</p>

<p>大内委員</p>	<p>さんの希望があるのですが、やはりたくさんは受けきれないというような状態になっているのが残念なところではあります。</p> <p>ありがとうございました。うちの学校でも行ってみたい、体験してみたいリストなど、子供たちの希望の中には上がってくるんです。しかし、近隣にないものですからなかなかそれが叶わない生徒がいるというのも実態です。ですから、何かしら、うまくできるといいなと思っておりました。</p> <p>もう1点ですけれども、学校の方に特別展等のポスターをいつもいただいて、そして掲示させていただいております。これは、多分一種類だけのポスターでどこにでも配布されてるものと同じものと思っているのですが、もし、予算に余裕があれば、小中学生にわかりやすい、そして、もうちょっと小中学生が興味を示せる、興味を引くような、写真でも良いので、また別なものがあればもうちょっと子供たちが「お父さんお母さん今日ね、こういうポスターあったんだよ」と言って、お父さんお母さんたちにお話することも増えてくるのかなと思っっていました。</p> <p>それから個人的になりますが、私もラスコー展、それから東大寺、あとクローン展、ここに足を運んでみて観させていただきますと、とても迫力があって学びが深い、いつも感銘を受けながらいました。個人的な話なのですが、嫁が非常にこういうものに興味を持っていて、少し前から宮城県に嫁いできたものですから、とにかく一番初めに宮城に足を運んで仙台駅を降りて、そしてそこからどこかに行きたいところはあるかと聞いたところ、ここが一番初めなのです。東北歴史博物館。その時にラスコー展を見て、そして、東北にもこんな大きな博物館があるということで、特別展があれば、とにかく一緒に行きましょと、私が誘われるんです。私たち以上に彼女がその特別展や常設展のことを知っているんですね。SNSをやっているのですが、若い人たちの入館者を増やしていくということであれば、やはり今はSNSの上手な利用、発信の仕方というのがあるかなと思っっていました。以上です。</p>
<p>議長</p>	<p>どうぞ。</p>
<p>副館長兼 企画部長</p>	<p>私の方からポスターについて、非常に答えにくいところではあるのですが、お話しさせていただきます。やはり特別展ポスター制作に当たりますと、担当者と印刷関係のデザイナーさんなどと打ち合わせをしながら、どのようなデザインが良いかということを検討しながら、何度も何度もやりとりしてデザインを決定していくという過程を踏んでおります。ただやはり、メインとなるターゲットというのはどうしても絞られてきてしまいます。蝦夷展となりますと専門の方、難しい方にターゲットがいてしまいがちであり、例えば昨年夏、当館で開催しました縄文時代の展示などでは、小学生の皆さんに観ていただきたいということでそれにちなんでデザインを考えてやっております。さらに、昨年夏は、お子さん達の興味の湧くようなイラストで、かなりダイナミックなイラストを実際にうちの若い元解説員がデザインして、小学校の方にアピールするというものを作りました。これに関して今、委員おっしゃられましたように、そういったいろいろな種類の特別展でも、いろいろな種類のものが作れば良いとは思いますが、予算の関係などもありまして、できていないというのは実際にあります。同じ展示でいろいろな種類がありすぎると全部違う展示に見えてしまうという点もあつたりしますので、似た様な感じでありながら、いろいろなバージョンができれば良いとは思いますが、なかなか手が回らないというのが現状です。</p>
<p>議長</p>	<p>同じようなポスターは、大きな上質なポスターを作ろうとすると、もう予算がということと2種類は作れませんという話だと思っのですが、一つはメインのポスターは従来通りあるとしても、小中学校向け用の、別に上質なものでなくてコピー版でも良いと思っんですよ。そのような形で、小学生向けのイラストを使用するか今おっしゃられたような工夫をすれば良いのではないかと。小学生はひとりで来ませんから。学校で来ることはあるけれども、小学生が見て行きたいと言ったら親と一緒に来るといふことになると思っしますので、子どもをターゲットに、そのような広報を少し、お金はあまりかけずにできるやり方を工夫し</p>

	<p>ていただきたいと思ひますし、今ありましたSNSのツイッターやフェイスブックなど、もうそれを使わないことはないというぐらひですよね、今の世の中。この点はどのようにやっているのですか。</p>
管理部長	<p>今年、実は博物館システムの更新を行ひまして、今の大内委員からありましたけれども、SNS、ツイッターがこれから利用できるようになります。今のところまだ調整中で、気軽にやりとりできる状況ではないのですが、博物館の活動内容を広く皆さんにお知らせする意味でもどんどん使つていただきたい、使つていくようにしたいと思ひます。また先ほど今野委員からも、隣県対応というお話がありましたけれども、そういった他県に向けても博物館の情報発信ができたらと考えております。</p>
議長	<p>他にいかがでしょうか。菊池委員から。</p>
菊池委員	<p>地元の立場からすいません。私もこの観覧者の数を見たときに、これは大変と思ひました。多賀城だけでなくどこでも広報誌は出ていますよね。その広報誌に特別展の時は枠をいただけるといいかなと思ひます。多賀城市では今、図書館と歴博とそれから文化センターの三つを繋ごうということ、いろいろなところでおっしゃつてますので、是非多賀城市ともお話ししてみれば、個人的にはおそらく大丈夫かなと思ひますので、どうぞ特別展の時にはやつていただければと思ひます。</p>
副館長兼企画部長	<p>多賀城市で一番脚光を浴びているのは図書館さんだと思うんですね。かなり私は行きますけど、若い方から年配の方までいつもいっぱい、座る場所のないような状態で賑わつております。当館といたしましては、特に今年度夏のモダンデザイン展の時に、連携企画として、うちの学芸員が図書館さんへ出向いて、そこで展示の内容を紹介してPRして、是非来て下さいという形で連携をとつています。それが非常に好評だったものですから、秋の蝦夷展の時にも担当の学芸員が図書館さんへお邪魔してお話する。図書館さんの方では、それに関連する東北の古代史、蝦夷、多賀城に関する図書を集中的に配架していただく、という形で相互に連携しながら、後々図書館さんのあのたくさんのお客様に来ていただきたいという気持ちもありますが、そうした取り組みを今年度から始めていますので、今後も拡大してやつていきたいと考えております。</p>
菊池委員	<p>図書館とかそういうのは良いのですが、多賀城市の広報の方にそれを載せていただけるような、こちらの企画がもう来年度ありますよね。そのようなものはできにくいのでしょうか。</p>
管理部長	<p>多賀城市の広報には毎月枠をとつていただいて、博物館の情報を定期的に載せていただいております。</p>
菊池委員	<p>もっと大きな感じの東大寺展のような。</p>
管理部長	<p>そうですね、後は多賀城市さんと共催を組んだりして広報活動できるように努力したいと思ひます。</p>
議長	<p>柳原委員どうぞ。</p>
柳原委員	<p>東日本大震災からもうすぐ9年ですが、継続的に被災文化財保全活動をされているということで、敬意を表したいと思ひますけれども、災害は東日本大震災だけではなく、今年度も台風19号で宮城県が相当の被害が出て、文化財も相当の被害が出ているんですけれども、そちらに対してどのような対応がなされたのかということについてはいかがですか。</p>
学芸部長	<p>台風19号、特に丸森町を中心に水害の被害があったということで、その文化財の対応に</p>

柳原委員	<p>ついて、当館の保存科学の方が県の文化財課からの指示を受けまして動いております。</p> <p>まだこの事業報告に記す段階まではきていないということなのでしょうか。</p>
学芸部長	<p>そうですね。またその他の対応をとっているところもありますので、館の取り組みとして行っていきたいと考えております。</p>
柳原委員	<p>スタッフの方が対応忙しいと思うのですけれども、文献・考古・保存科学、これだけそろっている機関というのは県内にほとんどございませんので、被災文化財の保全活動に対しても、東北歴史博物館に対する期待は高いと思いますので是非よろしくお願いします。</p>
副館長兼 企画部長	<p>実際、丸森町の方には美術品・仏像などもありまして、そこにはうちの美術の学芸員が現地に行って見て来たり、やはりカビや水損が結構ありましたので保存科学の者が現地に行って調査をしております。記載はしていませんがそういう形では行っております。</p> <p>それから、県外での活動になりますが、川崎市の市民ミュージアム、多摩川のすぐ脇にある博物館さんなんですが、地下に収蔵庫があり、その多摩川の水が地下に流れてしまったということがありました。それに対して私どもも何かお手伝いできないかということで、そちらにも職員を何度か派遣して活動を行ってるところです。実際に行ってみますとかなりのカビが発生しております。全部の収蔵庫が地下にあったものですから、ありとあらゆる資料が水損してるとということもありますので、長い時間をかけて職員を派遣して復旧活動に尽力するというところを行ってるところです。</p>
議 長	<p>全国的にいろいろな災害が発生している中で、資料保存機関として博物館の果たす役割は極めて大きいですが、他館の例を出して恐縮なんですけれども、とりあえず災害があった時に、「すぐ対応します」と、必要な物資を特に保存のための必要な物資を提供しますというようなことを真っ先に出すのが、新潟県博なんですよ。まずそういった体制が多分整えられているということだと思います。中越地震等の経験もあって、自分たちは大分助けられたので、地域がやられた時には、博物館としてそういった自分たちのできることをやりますということで、とにかく早いですね、アピール出すのが。そうした他館の動きなども参考にさせていただきながら、今県内被災地に入ったということは、お示しいただいたんですけれども、そのような活動自体もやっていますということは実はあまり見えない、正直なところ。今柳原委員のような質問が出てくるのはそういうことだろうと思います。ですから、県内は当然として、他地域の災害、特に隣接県等の災害に対しては、東北歴博として、こういうことができますというようなことを、情報提供なり、物資の提供なりというようなことで、是非存在感をお示ししていただくと良いのではないかと。宮城県歴史博物館でなくて、東北歴史博物館という名前を名乗っておりますので、それぐらいの存在感を是非、今後災害対応という点でもお示しをいただくと良いのではないかと思います。</p> <p>それから入場者の件で一つお尋ねしたいのは、施設に入ってくる数、こども歴史館や今野家住宅をどのくらい見たかという数はあるのですが、多賀城跡というのはカウントできないのですか。あちらにも多分行ってる人たちはいて、こちらから回っていく人もいるのでしようけれども、そこがカウントされていないというのが。カウントする機械がないのかもしれないけれど、通行したら、エリアに入ってきたらカウントされるような機械を設置しておけば、どのぐらいの人がそこを通っていたかですね。そういうことができるのかどうかちょっと事情はわかりませんが、やはりこの東北歴史博物館の管轄、多賀城跡研究所の管轄になるんですかね、両方でやっておられるんだと思うんですけれどもそこもやはり資産として、歴史資源としては非常に大事なことですので、そこを利用してる人、特にそういったようなことでカウントできると、この入館者、利用者という意味でもう少し数字が上がってくるというように思います。</p> <p>あと広大な広場を遠足等に活用させて良いのかどうかというようなことだと思います。小学生などは、遠足の場所として、なかなかその埋蔵物があるので、あまり走り回られると困るというようなことがあるのかも知れませんが、場合によってはそういう活用方法も小</p>

<p>館長</p>	<p>学校などに提して見学の中に入れてもらうとか、ちょっと事情がわからないのですがその辺はどうなのですか。</p> <p>まず多賀城の見学者の人数をカウントできないかというところでございますが、これについては現在、何人訪れたかというのをカウントしてるのは、実は多賀城市さんの方で政庁に訪れた人をカウントしているのですが、それもなかなか正確な人数としては出てきている状態ではないのです。多賀城跡調査研究所も東北歴史博物館も、多賀城跡については、多賀城市さんがカウントしたデータを使わせていただいているというのが現状です。ただ多賀城市市では、2024年が多賀城創建1300年という大きい節目な年を迎えますので、今現在も多賀城市さんと研究所・文化財課、それから博物館と連携して考えているところでございますので、その中で今のような課題がありましたということはお伝えして、検討できればと思います。</p> <p>それから遠足や昼食の場として利用できないのかという話でございますが、これは実際に6ページの多賀城跡巡りの説明で、Bの部分で番外編として、桜が4月、あやめが6月、萩9月の時期に、お花見を組み合わせた家族向け多賀城巡り、ここでお弁当も一緒に食べたりしておりますので、こういう試みも現在はしているところですので、史跡の保存との兼ね合いもありますが今後も展開できる余地があると考えております。</p>
<p>議長</p>	<p>是非、対象を広げて、期間もだと思いますが、ここから入ってはいけませんよということさえははっきりさせておけば、子供たちは本当に喜んでくれるのではないかなと思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>事業報告でちょっと時間を取っておりますけれども、中学校、小学校の方からは。</p>
<p>副会長</p>	<p>実は来年度から新学習指導要領が完全実施になります。各学校は3年生以上で外国語関係が入ってきます。3年生4年生で外国語活動週1時間プラスになります。今まで外国語活動週1時間だったものが、今度は教科の外国語ということで、週2時間プラス1時間ずつ3年生以上は授業数が増えてきます。そうすると学校としては行事の精選、行事をもう1回見直して、なるべくタイトなものにしようという計画がもうほとんどできているかと思えます。そこで一番タイトにするために狙われるのは校外学習なんですね。やはり、学校の外に出ることはとても大事ですけれども、遠くまで行くかというところではなくて、やはり地元のいろいろな社会面の施設とか、そういうことを、学習に活用できればということで、だんだん小学校は地元の歴史資料館とか公園とか、そういったところの見学が多くなってきているのではないかなと思っています。社会科や生活科の中で、この歴史博物館を活用するととても学びが深まるというところは、私もすごく大切にしたいのですが、なかなか学校の授業数確保というところでは、難しくなるかなと。もしかしたらこれ以上劇的に見学する学校が増えるということは難しいと思っています。</p> <p>それから、宮城県の小学校は6年生で歴史を大きく学ぶので、この時に今まで生活科、それから社会科で学んできた総合的なものを6年生の歴史で、ここで体験したり学んだりということが私はとても良いなと思っています。ただ、6年生は修学旅行が入ってくるので、会津に行くことが主だったりするとなかなかこちらに足を伸すのは難しいかなと。しかし、逆に宮城県へ修学旅行に来ている学校は意外と多いのですよね。だから逆に修学旅行で仙台に来ている周辺の県の学校さんへのPRってどうなのかなと思います。今6年生の修学旅行は自主研修というのが主にありますので、体験をしたり調べたりというところ、仙台市内の町の中を探検し調べることも大切ですが、今、会長さんが、東北歴史博物館、東北を語っているのだから、東北の歴史ということが学べて体験できるよということを少しアピールして、この施設を活用してもらうということも良い試みではないかと思っています。素晴らしい展示体験ができるということも、なるべく県内の学校には広めていただくとありがたいなと思います。以上です。</p>
<p>情報サービス班長</p>	<p>県外の修学旅行の状況ですが、一定数継続して来られてます。岩手が一番多かったと思いますが、岩手県、山形県、秋田県、そして福島県からも何校か6年生の修学旅行が来ており</p>

<p>議長</p>	<p>ます。今手元に細かな数字はないのですが、100校以上の学校が6月と9月に集中して来ております。</p> <p>それからPRについてですが、実は県外の学校さんについては直接行っておりません、修学旅行はほとんど旅行会社が斡旋しております。今の取引をさせていただいているのは旅行会社がほとんどです、旅行会社には催事カレンダーや特別展等の情報について、委員の皆さんと同じように郵送しているところがございます。</p> <p>広報の仕方については、いろいろな手を使わなければいけないと、今お答えになったような、従来型のやり方もそうですけれども、さらにそれが新しい試みができるかということだと思います。先ほどSNSの話があって準備中だということでしたけど、ブロガーをですね、うまく捕まえるとか、利用するというか。会員のブロガーを持って、ここが見所だよということをぼっと出して、それがどんどん、「いいね」が増えていくと、よし観に行こうかという話になりますので。それは業者に任せますとかいうような話ではなくて、会員の皆さまが情報発信、参加型の形をしていただく。特に若い人たちに対して一点ものでもいいので、魅力的な、館全部を見てもらおうというものではなくても、一点これは面白い、これ観に来た方がいいよというのがぼっと出ると来ますので。刀剣女子のように刀だけを見に来るという、いろいろな層がありますからね。そういったようなところ、いろいろ工夫をしていただければと思います。</p> <p>それでは一通りご発言いただきましたので、この事業報告については、以上ということで。非常に貴重な参考になる意見がありましたので、生かしていただきたいと思います。では、2番目の、令和2年度の事業計画についてお願いします。</p>
<p>副館長</p>	<p>(説明の概要)</p> <p>【令和2年度事業計画】</p> <p>1 企画展示事業</p> <p>(1) 常設展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合展示室は、これまでどおりの継続展示。 ・テーマ展示は、テーマ展示室1で①「国指定史跡 入の沢遺跡」など4テーマ、展示室2では⑤「柄鏡の美」など3テーマ、展示室3では⑧「宮城の文化－高僧の墨跡－」など8テーマの展示を行う予定。 ・映像展示は、東北地方の祭や民俗芸能、工芸技術の映像を上映。 ・今野家住宅は、四季折々の催事にあわせて飾り付けを変えながら展示公開。 <p>(2) 特別展示</p> <p>【みやぎの復興と発掘調査】展</p> <p>令和2年4月25日(土)から6月14日(日)までの44日間開催予定。</p> <p>令和3年3月には東日本大震災から10年となる節目の年であり、これまでの宮城県の復興状況と復興事業に関わる遺跡の発掘調査の成果等を公開。近年は地震や台風による水害など大きな災害が発生しているほか、近い将来、南海トラフ地震や首都直下型地震なども予想されていることから、この展示を復興の歩みの報告にとどまらず、次の災害時の対応に寄与するものとする。</p> <p>展示構成は、東日本大震災と文化財の被害や震災復興計画と文化財等であり、シンポジウムやバーチャルリアリティ体験、展示解説も予定。目標観覧者数は8千人。</p> <p>【GIGA・MANGA－江戸戯画から近代漫画へ－】展</p> <p>令和2年7月4日(土)から9月6日(日)までの56日間開催予定。</p> <p>今や世界共通言語となった日本の漫画だが、その起源に迫るとともに、江戸戯画から昭和戦中期の漫画作品・資料を通じ日本の漫画の変遷を辿る。</p> <p>展示構成は、量産漫画の誕生、職業漫画家の誕生等であり、展示解説、ギャラリートーク、ワークショップ等も予定。目標観覧者数は3万5千人。</p> <p>【伝わるかたち／伝えるわざー伝達と変容の日本建築】展</p> <p>令和2年9月26日(土)から11月23日(月)までの51日間開催予定。</p> <p>建築の様々な情報がどのように伝達し変容したのか、その技法や知恵、意味や背景に</p>

	<p>迫る日本建築史の新しい展覧会である。</p> <p>展示は大きく2部構成となっており、建築に見る個別の「かたち」がどのように伝わったのか、また建築の情報がどのような「わざ」により伝えられたのかを明らかにし、日本建築にまつわる人々の思いや物語を知るきっかけとなれればと考えている。</p> <p>3回の記念講演などを予定し、目標観覧者数は1万2千600人。</p> <p>2 教育普及事業</p> <p>(1) 施設運営</p> <p>図書情報室・今野家住宅は、例年と同様に運営。こども歴史館については、これまでの防災教育活動のほか、小学校の社会科単元「昔のくらし」と連動するかたちで企画した特設コーナーを活用して学習支援の強化を図り、利用者増につなげていく。</p> <p>(2) 催事運営</p> <p>館長講座、博物館講座、体験教室等、1年を通じて催しを実施予定。</p> <p>(3) その他の教育普及事業</p> <p>地域の各団体と協力し、文化庁の国庫補助金を活用した事業を実施予定。</p> <p>3 調査研究事業</p> <p>考古、民俗、歴史、美術工芸、建造物及び保存科学の6分野で、科学研究費や文化庁の国庫補助金を活用し、調査研究事業を実施予定。</p> <p>4 資料管理事業</p> <p>令和元度と同様に、資料の収集・保存・活用・修復に努めるとともに貸し出しや公開など利用促進に努める。また収蔵環境の維持管理を行い遺跡出土品の保存処理に努める。</p> <p>5 東日本大震災対応</p> <p>(1) 被災文化財の保全活動</p> <p>関係機関等と連携・協働し、資料の保全、修理活動を実施予定。併せて、被災文化財の修理や保存に関わる技術的な研究も推進予定。</p> <p>(2) 県内復興関連発掘調査への協力</p> <p>考古分野職員を調査員として派遣する予定。</p>
議 長	<p>特別展示等を含めての事業計画のご説明をいただきました。</p> <p>来年度はそうしますと歴博主催のものが中心だということになるのですね。</p>
副館長兼 企画部長	<p>報告させていただいたものの中で、当館が所謂自主的に企画するものが1番目、春の「みやぎの復興と発掘調査」及び秋の「伝わるかたち／伝えるわざ」の2本が当館自主企画でございまして、「GIGA・MANGA」に関しましては、毎日新聞社さんの企画で行う巡回展となっております。</p>
議 長	<p>はい。ただいまの報告につきましていかがでしょうか。</p>
近江委員	<p>2番目「GIGA・MANGA展」については巡回展なのですね。独自の企画かなと思ったものですから、大変面白い企画で京都のマンガミュージアムとも連携しているということで期待したのですが、観覧者数3万5千人と目標がでておりますが、このままだとこの人数集まらないと思います。というのは、石巻にマンガ館がございまして、宮城県は、石森章太郎が生まれた場所でもありますし、マンガ人口は結構多いと思うのですね。私の前任の東北生活文化大学美術学科でマンガ志向の学生が大変多いのですよね。プロの漫画家になってる卒業生もおられますし、この企画ですと戦前とありますよね。今の若い人の興味というのは戦後・現代なんです。こういうマンガ展であっても、中身を見てがっかりする、見たけどがっかり。現代作家が全然入ってこないわけですね。荒木さんという人でしたっけ、宮城県出身の現代漫画家がいまして、メディアテークでやったときは、全国から人が来まして。大変な人気だったんですね。それと比べるとこれは戦前ですので今の若い人へのアピールはできないんじゃないかと思うのですね。「MANGA」と銘打っているのに期待してきたけど、がっかりして帰られては困るし、内容をもうちょっと、これは巡回なのではないかと思うのですけれど、例えば、独自の企画を一つここに加えて、併設展で、現代の宮</p>

	<p>城県出身でもいいし、誰か有名作家の併設展を先に展示をするとかですね、あるいは講演会に漫画家を呼ぶとか、何かちょっと加えないと若い人にアピールできないと思います。</p> <p>本当にマンガ人口は多いですよ。そのような見なれた人から見たら、現代、視覚に訴えるものがアピールになりますよね。なので昔の文化を見ることよりも、今の流行作家の作品を見たい、その方が勉強になるという視点だと思うんですね。</p> <p>事業報告書を見ましても、年代別に見ますと、モダンデザイン展の参加人数は少なかったのですが、19歳までと39歳までと59歳まで比較的若い世代が、三つの特別展の中で一番比率が高かったのです。このモダンデザインと銘打っているだけで、現代のモダンデザインを求めている世代が来たんだと思うのです。そういうことからしても、歴史博物館ということで過去の歴史を勉強するという、それがまた研究基盤にもなっているので、美術館とは違う視点が大事かと思うのですが、美術館であれば、かなりの若い人が全国から集まってくると思うんですね。そういう視点をちょっと加えていただいて、独自の企画をそこに盛り込んでいただかないと、若い人を取り込めないと思うのです。3万5千人はちょっと今の企画の段階では、それだけ人が集まるかなと危惧がございます。</p> <p>老婆心ながら、若い人の気持ち、漫画を志す人口が多いだけにちょっと惜しいなという。もう少し何か加えていただけたらいいかなと思います。老婆心ながらですね。</p>
議長	<p>はい。ではお願いします。</p>
副館長兼企画部長	<p>ありがとうございます。私のほうから展示そのもののお話をさせていただきまして、具体的な企画は担当からお話させていただきたいと思います。まずこの巡回展でございますが、主に北九州市の美術館さんがお持ちの版画類や、すみだ北斎美術館の北斎画に対する浮世絵など、そういったものを中心とした3館での展示になりますので、そちらの浮世絵や錦絵関係がメインの巡回の展示になっていますので、我々といましては博物館か美術館といろいろ思うところがあるのですが、企画元の方が、浮世絵・錦絵関係を中心とした展示の構成になってるという状態になっています。</p> <p>やはりそれは我々といまして、近江委員おっしゃられたように、せっかく夏というこの時期、家族連れも動く時期ですので、もう少し何かできないだろうかということをいろいろ考えてますので、企画の担当から追加でご説明させていただきたいと思います。</p>
企画班長	<p>このMANGA展ですが、ご指摘のとおりなかなか今の状況では難しいというのは私たちも感じております。ただ、浮世絵というものが今の現代漫画に繋がる原点だということで、新しいところでいくと、「のらくろ」くらいまでは展示に入ってくる。もう少し新しいところまで入ってこないのかということをお話したんですが、これの巡回展をもともと作ってるのは清水先生という漫画研究家の先生でいらっしゃるんですが、その先生が京都マンガミュージアムのもとでベースにして作られたものなのです。それで実はその「のらくろ」以降というのは、漫画に対する解釈がかなり割れてきており、一つの解釈ではなかなか進まないところがあるので、そこから先の資料を取り上げるの難しいというところがあります。それから資料提供していただける館が、やはりそこから先の資料というのをあまりお持ちでない。さらに著作権の問題がかなり絡んでくるということで、巡回としてはこういったところで収まったということです。</p> <p>なかなか戯画と漫画、漫画という言葉が入っている以上どうしても漫画への期待感があるでしょうからそれにどう対応していくか。それにつきましては、ワークショップなどそういったところで、その要素を取り込んで来館者も取り込んでいきたいと考えておりますし、県内に漫画関係の石森の美術館などもございます。そうしたところとの連携がとれないかをこれから模索していきたいと考えております。</p> <p>展示室、展示自体を変えるということは巡回展なので難しいのですが、そこから出たエントランス等のスペースを使って、もう少し新しいものを使えるようにして、子どもたちが古い絵に興味を持てるようなワークショップの展開、できれば部屋に籠もってワークショップをするというのではなくて、エントランスなどの皆さんがいるところで、ちょっとした体験ができて、そのまま展示の中に引き込まれていく、というような展開を作っていければと</p>

	<p>考えております。それから展示作品1点1点を見ますと、やはり古い作品になっていますが、浮世絵自体も吹き出しが入ってるなど、そうした漫画の原点がたくさん含まれています。そういったものを、ちょっと巡回の解説だけではなかなかわかっていただけない、そして当館以外は皆美術館の巡回なのでどうしても美術館仕様でできていますので、そこから作品1点1点を取り上げて、歴史的にうちの館として、これのこういったところが面白いという解説を加えて、もっと観やすく、子どもたちでも、また家族連れで観ていただくようなこともしたいと思っています。また、浮世絵を切り取って、そこで写真を撮ってSNSにあげていただくとか、そういったこともできるよう、かなり賑やかで明るい感じの展示を作っていければと考えさせていただいております。</p>
議 長	<p>なかなか難しいところでは、巡回展ですからね。こちらでいじることができないのがほとんどです。展示の仕方は多少工夫ができるということですね。</p>
企画班長	<p>そうです。</p>
近江委員	<p>今お話がありました解説とは、子ども向けの解説パネルを作り、こういう見方があるんだということ、それは同時にできることだと思いますし、若い人にとってはこういう戯画や原点を学ぶということはとても大事なことなので、これは良いかと思います。独自のもの、先ほどおっしゃられていたもの、努力はそのまま続けていただいて、また良い方向にいくとよいと思っておりました。ワークショップを考えてらっしゃるようですが、講演会みたいなことはできないでしょうか。今後検討していただくということで、期待しております。</p>
議 長	<p>今、近江委員からあったように独自の併設展ができると、宮城ゆかりのとかですね、漫画家さんはたくさんいらっしゃいますので、そういう企画もできると思うのですが、ポスターも共通なのですか。</p>
企画班長	<p>ポスターは宮城版で作って良いということなので、こちら側でデザインできます。</p>
議 長	<p>なるほど。そのポスターのところで、先ほどもいろいろ子どもたちわかりやすいようなポスター仕様があると良いというお話があったのですが、そこで若い人に魅力が出るようなポスターの示し方をお出しいただけるといいと思います。私はこれを最初に拝見した時に、このタイトル、「GIGA・MANGA」という。サブタイトルを読んだので、これがこの「戯画」と「漫画」なのだということにはわかりましたけど、メインタイトル見ただけじゃ何のことか、実はわからないタイトルですよ。巡回展なので、変えられるのかはよくわかりませんが、多分これおそらく行ってみようという気にはならないタイトルだろうねという気もします。巡回の主催の方がどう考えて、こういうタイトルにしているのかよくわかりませんが、館の方で巡回展を受入れるにあたって、こういうタイトルをいじることができるかどうか、その辺はどうなのですか。</p>
企画班長	<p>タイトルについては、いじれないということでございます。巡回3館が集まった会議がありまして、そちらの中でタイトルが決まっております、当館としてはちょっとこのタイトルはおっしゃられたとおり何を展示するのか通じないので、このタイトルでは苦しいというお話をさせていただいたのですが、他の巡回館がこのタイトルが良いだろうということで。それをフォローするために、サブタイトルが付いているという形になっております。タイトルをいじることが今できなくて、そこについては毎日新聞にも交渉して、当館独自でタイトルを付けられないかというお話をさせていただいたんですが、図録との関係もありまして無理ということでした。同じようなことは共催していただく河北新報社、TBCからも言われておりまして、何ができるかという、キャッチコピーで勝負するしかないかということで、タイトルを抑え目にし、もっと皆に伝わるようなキャッチコピーを入れていくような形でやれないか、今河北さんそれからTBCさんと一緒に3者で協議をしております。それか</p>

	ら、ポスター・チラシでどのぐらいアピールできるかということをご相談させていただいているところです。
議長	いろいろ工夫をしていただく。河北さんの力もかなり大きいという感じもします。
今野委員	頑張ります。ただ時期が東京五輪とパラリンピックとかぶっている時期なんですよ。そこが非常に厳しいですけど頑張ります。
議長	柳原委員どうぞ。
柳原委員	今大学は留学生が非常に多くて、東北大だとおそらく数百人から千人ぐらいいるんじゃないかと思いますが、いろんな留学生がどうして日本に関心を持ったかということ、専門的なことは別にしまして、やはり漫画とアニメだということがはっきりしています。ですからこれはうまくやれば留学生がたくさん観に来る企画だと思います。やはりただ戦前であるというところがありまして、近江委員もおっしゃってますように独自にもう少し工夫をしていただきたいということと、それから、外国人にとって、漫画というのはすごく関心があるところですし、かえってオリンピックの時期は外国人が来ますので、それをうまく利用できるのかなと思っています。
近江委員	漫画というのは世界共通語なのですよ、漫画で通るのですよね。
企画班長	タイトルを決めるときにそういうイメージがあったので、ローマ書きで「GIGA・MANGA」と書こうと、他の館の方々がおっしゃられていました。
近江委員	「GIGA」まではね、「MANGA」はいいですけども。
柳原委員	東北大の場合は、留学生の寮が大規模なものがたくさんありまして、そこにポスターが入れば相当広がるんじゃないかなと思います。
議長	それこそ留学生に発信してもらって、ツイッター等で、まず彼らを招待するというようなところからやってもらうのが、これは館独自にできる話ですから、留学生とそれから目星をつけたツイッターをやるような人、ブロガーの人たちにまず来てもらって、展示開催の前にやってもらうといいかなと思います。それから、メインタイトルは動かさないけどポスター等で工夫ができるということなんですが、「これが漫画アニメの原点だ」みたいな形で日本のルーツを感じさせるような形になると、それにつられてアニメの原点、漫画の原点は当然ある訳で、ぼこぼこっと日本アニメ文化ができてきたわけじゃないよという意味での魅力の発信。これをできる範囲で工夫をしていただけると、来年のこの協議会で、目標3万5千人を達成しました、というような報告をいただけるのではないかと楽しみです。
副館長兼企画部長	ちょっとよろしいでしょうか。今野委員の方からオリンピックとかぶっているという話もありましたし、柳原委員からは留学生という話もありました。当館では、やはり表記がほしい日本語です。文字が大きいとか小さいといろいろコメントをいただくのですけれども、今回この展示に関しましては英語の表記も取り入れていこうと思っています。全部の資料すべて英語表記というのは難しいので、展示の趣旨ですとか、パネルですとか、主な項目については、英語の表記も一緒に併せて展示することによりまして、たくさんの国から来ていただいた方、あるいは留学生にも紹介できるというような取り組みも考えております。
議長	あとタイトルの件です、この今の議案もそうなのですが、たとえば特別展「みやぎの復興と発掘調査」は正にそのままのタイトルですので、それがどの程度の吸引力を持つかということもあると思います。実態の中身はこういうことだとしても、なかなか難しいところはあります。記載の問題と関わってくるので、あまりちゃらけたタイトルにはしにくい、と

	<p>いうことはあると思いますが少し考えていただけると。これは独自のやつなのでいろいろ考えられますよね。</p>
企画班長	<p>タイトル自体は、もう公表してしまっておりますので、こちらキャッチーな言葉を入れて、魅力をお伝えできるように努力していきたいと思います。</p>
議長	<p>はい。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。大分お時間も迫っております。事業計画としては以上ということで、了解いただくということでよろしいでしょうか。 では、3番目、東北歴史博物館中長期目標自己評価についてお願いいたします。</p>
副館長	<p>(説明の概要) 【東北歴史博物館中長期目標令和元年度自己評価(12月末現在)】 ○取り組みの概要について I 目的 当館では、開館以来の博物館を取り巻く環境の変化や、東日本大震災への対応という課題に取り組むため、平成25年度からの5年間を中長期目標の前期、平成30年度からの5年間を、中長期目標の後期と位置づけ、より魅力的な博物館を目指して取組を進めている。 III 取り組み項目 昨年度から始まった後期取組では、前期から活動方針等の大きな枠組みの変更はせず、「1常設展示・企画展示」から「9東日本大震災対応」まで9つの項目を設定。さらに、これらの項目の下に、16の活動方針と31の達成目標を設定して取り組んでいる。重点目標として、「“み”たい博物館情報の創造(はくぶつかん情報創造プロジェクト)」と「東日本大震災対応」の2つを柱に据え、関連する個別の達成目標を重点事業に位置づけ、人々を魅了し「“み”たい」をくすぐる博物館活動を創造することを目指す。 IV 結果概要 評価の方法は、「4十分達成」「3ほぼ達成」「2やや不十分」「1不十分」の4段階を評価基準とし、全職員で評価を行った。その後、中長期目標達成推進委員会(館長、副館長、部長、班長で構成)で、全職員の評価結果を基に館としての評価を決定し意見を付してまとめたところ、総合評価では「ほぼ達成」、個別評価では30の目標で「ほぼ達成」、1つの目標で「やや不十分」という結果となった。 ○個別の達成目標(抜粋)についての説明 ・ 達成目標NO①『総合展示室のリニューアルを目指し基本的な構想を策定します。』は当初、「歴史的災害展示を盛り込んだ総合展示室のリニューアル」に向けて検討していたが、震災復興関連の補助金の期限(R2まで)やスケジュール的に難しいとの判断に至り、平成30年度に「総合展示室のリニューアル」と「歴史的災害展示研究」は切り離して取り組むよう方針転換した。 今年度は、取組みの再スタートの年度として、まずはリニューアルの方向性、行程、期間設定等の検討から行うこととし、令和4年度までに当博物館としての基本的な構想(考え方)を策定することとした。評価としては、検討過程や成果が見えにくく、「2やや不十分」となった。 ・ 達成目標NO③『魅力的な展示を実施します。』は、3つの特別展の開催に取り組んだ。「スーパークローン文化財展」では、空間再現の手段として、音・香りの展示も行ったほか、当館独自のレプリカ作りに挑戦するワークショップや缶バッジ企画に取り組んだ。「モダンデザイン展」では、展示室の仕切りを「バナー」のみで行うなど空間演出を工夫。開館20周年を記念した自主企画の「蝦夷展」では、展示に加えてプレイベントのアニメ上映と講演からはじまり、会期中は毎週末に講演会や講座を計13回に渡り開催し、展示を盛り上げた。評価としては、総観覧者数では、目標を下回ったが、「モダンデザイン展」では新たな層(20～30代の来館22%、他2つの特別展より10%程度割合が多い。)の来館を促したほか、「蝦夷展」では、自主企画としては9</p>

	<p>千人を超える観覧者と5千人を超える講演・講座参加者を得て、来館者の満足度も高く「3ほぼ達成」となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成目標NO⑩『研究分野ごとの資料収集方針に基づき、計画的な資料収集を行います。』は、寄贈・寄託を受けた資料を適正な手続きにより受け入れたほか、収蔵品のさらなる充実のため「美術品等取得基金」を活用し、12年ぶりとなる購入による取得を進めている。評価としては、寄贈・寄託・基金を活用して適切に資料収集を進めているとして、「3ほぼ達成」となった。 達成目標NO⑪『館のロゴを制定し、館のシンボルとして活用します。』は、10月10日から10日まで、中学生以上の方を対象にロゴマークの募集を行い、299作品の応募を受け付けた。候補作品の選定にあたっては、5人の外部有識者等からなる検討委員会を組織し、現在、候補作品の選考を依頼している。評価としては、制定に向けた取組みを進めたとして、「3ほぼ達成」となった。今後、年度内の制定に向けて、2回の選定委員会を経て、候補作品を絞り込み、館長に答申するとともに、引き続き活用のあり方を、ワーキンググループにおいて詳細な検討を行っていく。 達成目標NO⑫『県立博物館として県内の文化財の保全活動をリードし、活動全体を推進します。併せて被災文化財の修復や保存に関わる技術的な研究も進めます。』は、県内市町（亘理町、村田町、南三陸町、石巻市、ほか）が直面している保全活動（クリーニングや安定化処理などの保全措置、保管施設の環境調査、管理支援及び活用支援など）を、行政の枠組みを超えて支援を行ったほか、今年度は台風19号により被害を受けた県内博物館の支援にも取り組んだ。評価としては、事業は着実に進んでいるとして、「3ほぼ達成」となった。 総合評価は、9つある取り組み項目のうち7つの項目について、今年度取組の良かったところ、逆に反省すべきところを総括している。総合評価における推進委員会の意見としては、「「ほぼ達成」と評価するが、今後も「”み”たい博物館」を目指し、各達成目標の取組みを進め、館の利用促進につなげていく。」とした。成果が今ひとつ上がらなかったものについては、課題に継続して取り組み、成果が上がったものについても維持向上につながるよう取組み、様々な博物館活動の情報提供と発信に努めていく。
議 長	<p>4ページ15番目の館のロゴですが、これは館のキャラクターとはまた別の話ですよ。ロゴはロゴで当然必要ですけれども、館のキャラクターを作ってはどうですかというお話を前から申し上げてますが、そちらの方はどうですか。</p>
館 長	<p>ロゴとキャラクターのところで、キャラクターのお話もございましたが、館として取り組む上で同時にというのはなかなか難しい面もあるということで、まずはロゴを制定していこうということで説明させていただきました。ロゴマークについては、今年度中には制定できる予定となっております。</p> <p>キャラクターについては、ロゴについての活用をこれから考えていくのですが、その中でキャラクターはどういう形で活用可能ということも含めて、検討させていただければと思っています。</p>
議 長	<p>是非子どもたちの魅力ということで、ぬいぐるみにするかどうかはともかく、デザインとしては何かお考えいただいて、それを発信の際の一つのツールとされるのがよろしいかと思えます。</p> <p>他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>では、その他のところでございます。宮城県文化財保護活用大綱策定についてお願いいたします。</p>
文化財課 保存活用 班長	<p>(説明の概要)</p> <p>【宮城県文化財保護活用大綱策定について】</p> <p>近年、少子高齢化あるいは地域社会の役細り等が叫ばれており、文化財の保存活用について平成31年4月に文化財保護法が改正された。この改正概要は資料のとおりだが、方針と</p>

<p>議 長</p>	<p>して、地域における文化財の総合的な保存活用，あるいは個々の文化財の確実な継承に向けた保存活用制度見直し，地域文化行政の強化という点で改正が行われた。この中で，県文化財関係部局として都道府県が文化保存活用に関する総合的な施策，大綱を策定できること，また，市町村では，その大綱を勘案して保存活用に関する総合的な計画を策定することである。宮城県では，今年度から来年度にかけて大綱策定を進めているところ。目的，位置付けに関しては記載のとおりだが，文化財関係の事業を整理して方針を立てる。もう一つは，市町村の文化財行政，地域計画策定に対して，ある意味気づきを与えられる大綱になること。それを目指して策定を進めている。</p> <p>大綱骨子案については，2ページ，3ページのとおりで，現状と課題を整理し保存活用に関する基本方針の推進についてまとめていきたい。</p> <p>博物館においても，文化財を収集，展示する施設であることから大きな方針には博物館の中長期目標も記載していきたい。</p> <p>発表スケジュールは，今年度9月に文化財保護審議会に諮問しており，来年度大綱に関する委員会を開催し議論する予定。審議会は来年度3回開催し，最終的には答申をいただいて策定という形になる。来年度の博物館協議会で，ある程度形になったものを報告できるかと思うのであらかじめご承知置き願いたい。</p> <p>はい。これにつきまして，何かございますでしょうか。これからまた1年かけてということですね。内容を詰めていただいて，歴史文化資源を保護しながら有効に活用していくという観点から是非良い内容にしていいただければと期待をしております。</p> <p>以上でよろしいでしょうか。</p> <p>では，今日の議題についてはすべてご了承いただいたということにさせていただきます。ありがとうございました。</p>
------------	---

以下省略